

2018年10月26日（金）

## ないじえる芸術共創ラボ 古典インタプリタ日誌 梁亜旋さんWS アジアの木版印刷

### 1,2 回目のご来館

梁亜旋<sup>りょうあせん</sup>さんはこれまで中国の伝統的な民間芸術のひとつである「年画」（春節の時に家に飾る祝祭の版画）をモチーフとした作品作りに取り組んでこられました。そこで、アジア圏の印刷文化について一緒に考えてみよう、と、書物や印刷のことに詳しい入口敦志先生（当館教授）にレクチャーをお願いしました。



### 2, 印刷技術の開発と発展

入口先生によると、東アジアの印刷技術は、唐代の中国（7世紀頃）で発明されたそうです。陀羅尼と呼ばれる短いまじないを印刷したものを、折るなどして金属製のプレスレットの中に入れ、お守りとして身につけていたことが、お墓の埋葬品の調査から明らかになっているとのことでした。

そして印刷技術は仏教の布教とともに発展し、宋代（10～13世紀）に至り仏教以外にも、朱子学の流布や科挙に伴う教育の統一といった要因に対して、各種標準テキストの必要性が高まり、印刷が役に立ったといえます。

日本では室町時代（14世紀～）頃まで、仏教以外の印刷物は出てこなかったそうですが、特に近世中期以降（17世紀頃～）には木版（製版）印刷の技術が発達し、多色刷りの錦絵など、優れた木版作品が次々に登場しました。

### 3, 板木の違い

さて、この日入口先生は、東アジアの様々な地域の木版印刷や、板木などを持ってきてくださいました。特にベトナムでお求めになったという版画は、日本の浮世絵などとは全く違うのが一目でわかります。

入口先生のお話では、一口に木版印刷といっても、使われる道具

2018年10月26日（金）

や印刷の方法が、地域によって全く違うのだそうです。

たとえばベトナムの板木は、太い線が垂直に深く彫られていて力強い雰囲気ですが、日本の板木の彫りはとても浅く、細かい文字や模様の表現も可能になっています。



左、ベトナムの板木。黄色い紙は、この板木を使って刷った線画。  
右、日本の板木。上は草双紙（江戸時代に作られた絵入読み物）、  
下はほぼ同時期に作られた絵手本の色板。鯉の赤と水草の緑。）

2018年10月26日（金）

これらは彫り方が違います。

ベトナムの板木は、のみなどで垂直に力を入れて深く彫ります。日本のものは、小刀を手前に引きながら、指だけの力で彫るのだそうで、のみなどは広い範囲を彫る時にしか使わないのです。

梁さんに中国の板木についてうかがうと、彫りは深いのですがほぼ台形のラインに刀が入っているのだそうです。しかしベトナムの板木程深いものは初めてご覧になったそうで、とても興味深そうに観察しておられました。

#### 4, 馬連について

板木の形が違うので、当然刷り方も違います。

日本や台湾では、和紙や木を芯にして竹が巻いてある馬連ぼれんを使っています。垂直に力が入りやすいようで、梁さんもご自身の制作の時には、この形のものを使っておられるとのことでした。

中国のものは芯に紙を使い、しゅろが巻いてあるのだそうです。



←日本の馬連。

武蔵野美術大学造形ファイル  
(<http://zokeifile.musabi.ac.jp/%E3%83%90%E3%83%AC%E3%83%B3/>) より引用。

見て驚いたのは、韓国の伝統的な馬連で、なんと髪の毛を煮詰めて蠟で固めたものが使われているそうです。入口先生に、馬連を作っているところの画像や実物を見せていただきましたが、とても柔らかいわしのような質感でした。

しかしこの馬連を作ることのできる職人さんはほとんどいなくなってしまい、技術が継承されるかどうか分からないのだそうです。



←韓国の馬連。



2018年10月26日（金）

### 5, 色刷り技術の進歩と応用について

しかしどうして同じアジア圏でもこのように道具や技法が異なるのでしょうか。

入口先生は、色刷りが伝わってゆく過程で、現物のみさまざまな地域に広がったものの技術は伝わらなかったため、各国で工夫したのではないかと考えておられます。

たとえば色刷りを行う際には何枚もの色板を使いますが、違う板を重ねてゆくときにずれないようにする方法が、各地域で違うのです。

日本では「見当<sup>けんとう</sup>」とよばれる印をつけ、そこに合せて紙と板木をセットします。ベトナムの板木にも同じ役目の印があるそうですが、中国にはないのだとか。

同じものを見ていても、それを再現しようとする過程で、各地域でじっくりくる方法を探り、より便利な道具を開発していった結果、全く違う印刷文化が形成されていったのですね。

梁さんが取り組んでおられる、年画をモチーフにした現代アート作品もまた、その流れのどこかに連なってゆくのでしょうか。

